

### 第63回 県更生保護大会報告



平成28年10月28日柏崎市アルフォーレを会場に開催されました。大会の席上、柏崎刈羽地区で、下記の方が顕彰されました。

- ・法務大臣表彰…………… 山波 家希
- ・全国保護司連盟理事長表彰…………… 真貝 行雄
- ・関東地方更生保護委員会委員長表彰……………
- 井上 温成、加藤 愛子
- 北村 勤、熊丸 政二
- ・関東地方保護司連盟会長表彰……………
- 今井 千春、河合 則雄
- 小林 信隆
- ・新潟保護観察所長表彰…………… 横田 誠一
- ・新潟県保護司会連合会長表彰……………
- 井倉久美子、栗林 文英
- 春川 稔、宮澤 順亮

### 保護司の異動 ごくろうさまでした

平成28年9月末日 退任 藤 卷 勝 優 (安田地区)

「いのちの重さは万人に等しい」命を根っこに置いた生き方に差別や偏見はないように思えてきます。

自分の命を大切に生きる、他人の命の大切さを、知る、この事以外に負の連鎖を断ち切られるものはないように思えてきます。

「いのちの重さは万人に等しい」命を根っこに置いた生き方に差別や偏見はないように思えてきます。

この度、ご縁があり、障がい者差別についての原稿を、とお声掛けいただき悩んでおります。

そもそも「障害」とは何？差別ってどういう状況を指すの？



### 今を生きる

田畑 洋

難しさがどつと頭の中を占拠。ものの順序として「障害を持つ」とはどんなことを考えてみます。障害は生きてゆく上で障りになる事が目に見える形で現れ、他人にも障

愛の協力運動

会員のページ



がいてあることがわかるタイプと、表には現れてないが障りになるものを抱えているタイプとに大別出来るそうです。

障害を、生きてゆく上での障りという範囲にまで広げると「人は皆、障がい者」と言えます。

そうした「くくり」の中でお互いを感じた時、人よりは上にいると思えるでしょうか？対等な関わり方が、見えては来ませんか？

貧困者であれ障がい者であれ何であれ、人は一つしかない命を懸命に生きる存在ということでは、皆対等ではないのでしょうか？

差別・いじめ・パワハラ・セクハラ等の根源にある物は「命の軽視」であり、他との比較の中の根拠のない「優越感」にあると感じています。

平成二十九年酉年、酉年は変化の年とも言われ、年頭より世界中で変化が求められ始めています。

昨年、柏崎で更生保護大会が行われ、多大な成果を収めることができました。今後も着実な歩みを重ね、節目々で開わり合う人々との縁を深め、実りある年と相成りますよう、祈念いたします。

今年も、黒松のご愛読を宜しくお願いたします。

### あとがき



見・いじめは生まれません。人は皆、障りを抱えながら生きていく障がい者であり、等質の価値の中で生きています。

障がい者差別が、際立った問題ではなく、いろいろな種類の差別の根源は同根であり、その解決は一人ひとりの生き方（他人と向き合う姿勢）に、それぞれの立場で自分の許容範囲を広げることへの挑戦だと思っています。